

手袋を買いに

新美南吉

青空文庫

寒い冬が北方から、狐の親子の棲んでいる森へもやって来ました。

或朝、洞穴から子供の狐が出ようとなりましたが、

「あつ」と叫んで眼を抑えながら母さん狐のところへころけて来ました。

「母ちゃん、眼に何か刺さった、ぬいて頂戴早く早く」と言いました。

母さん狐がびつくりして、あわてふためきながら、眼を抑えている子供の手を恐る恐るとのけて見ましたが、何も刺さってはいませんでした。母さん狐は洞穴の入口から外へ出て始めてわけが解りました。昨夜のうちに、真白な雪がどっさり降ったのです。その雪の上からお陽さまがキラキラと照っていたので、雪は眩しいほど反射していたのです。雪を知らなかった子供の狐は、あまり強い反射をうけたので、眼に何か刺さったと思ったのでした。

子供の狐は遊びに行きました。真綿のように柔かい雪の上を駆け廻ると、雪の粉が、しぶきのように飛び散って小さい虹がすつと映るのです。

すると突然、うしろで、

「どたどた、ぎーっ」と物凄い音がして、パン粉のような粉雪が、ふわーつと子狐に

おつかぶさつて来ました。子狐はびつくりして、雪の中にころがるようにして十米メートルも向こうへ逃げました。何だろうと思つてふり返つて見ましたが何もいませんでした。それは縦もみの枝から雪がなだれ落ちたのでした。まだ枝と枝の間から白い絹糸のように雪がこぼれていました。

間もなく洞穴へ歸つて来た子狐は、

「お母ちゃん、お手々が冷たい、お手々がちんちんする」と言つて、濡ぬれて牡丹色ぼたんいろになつた両手を母さん狐の前にさしました。母さん狐は、その手に、は——つと息をふつかけて、ぬくとい母さんの手でやんわり包んでやりながら、

「もうすぐ暖あたたかくなるよ、雪をさわると、すぐ暖くなるもんだよ」といいましたが、かあい坊やの手に霜しもやけ焼やができてはかわいそうだから、夜になったら、町まで行つて、坊ぼうやのお手々にあうような毛糸の手袋を買つてやろうと思ひました。

暗い暗い夜が風呂敷ふろしきのような影をひろげて野原や森を包みにやつて来ましたが、雪はあまり白いので、包んでも包んでも白く浮びあがつていました。

親子の銀狐は洞穴から出ました。子供の方はお母さんのお腹なかの下へはいりこんで、そこからまんまるな眼をぱちぱちさせながら、あつちやこつちを見ながら歩いて行きました。

やがて、行手ゆくてにぼつとりあかりが一つ見え始めました。それを子供の狐が見つけて、

「母ちゃん、お星さまは、あんな低いところにも落ちてるのねえ」とききました。

「あれはお星さまじやないのよ」と言つて、その時母さん狐の足はすくんでしまいました。
「あれは町の灯ひなんだよ」

その町の灯を見た時、母さん狐は、ある時町へお友達と出かけて行つて、とんだめにあつたことを思おもひ出いしました。およしなさいつていうのもきかないで、お友達の狐が、或ある家の家鴨あひるを盗もうとしたので、お百ひやく姓しやうに見つかつて、さんぎ追いまくられて、命から逃げたことでした。

「母ちゃん何してんの、早く行こうよ」と子供の狐がお腹の下から言うのでしたが、母さん狐はどうしても足がすすまないのです。そこで、しかたがないので、坊ぼうやだけを一人で町まで行かせることになりました。

「坊やお手々を片方お出し」とお母さん狐がいました。その手を、母さん狐はしばらく握にぎっている間に、可愛い人間の子供の手にしてしまいました。坊やの狐はその手をひろげたり握にぎつたり、抓つかつて見たり、嗅かいで見たりしました。

「何だか変だな母ちゃん、これなあに？」と言つて、雪あかりに、またその、人間の手に

変えられてしまった自分の手をしげしげと見つめました。

「それは人間の手よ。いいかい坊や、町へ行ったらね、たくさん人間の家があるからね、まず表に円いシャツポの看板のかかっている家を探すんだよ。それが見つかったらね、トントンと戸を叩いて、今晚はつて言うんだよ。そうするとね、中から人間が、すこうし戸をあけるからね、その戸の隙間から、こっちの手、ほらこの人間の手をさし入れてね、この手にちようどいい手袋頂戴つて言うんだよ、わかったね、決して、こっちのお手々を出しちや駄目よ」と母さん狐は言いきかせました。

「どうして？」と坊やの狐はききかえました。

「人間はね、相手が狐だと解ると、手袋を売つてくれないんだよ、それどころか、掴まえて檻の中へ入れちやうんだよ、人間つてほんとに恐いものなんだよ」

「ふーん」

「決して、こっちの手を出しちやいけないよ、こっちの方、ほら人間の手の方をさしだすんだよ」と言つて、母さんの狐は、持って来た二つの白銅貨を、人間の手の方へ握らせたりしました。

子供の狐は、町の灯を目あてに、雪あかりの野原をよちよちやうつて行きました。始めの

うちは一つきりだった灯が二つになり三つになり、はては十にもふえました。狐の子供はそれを見て、灯には、星と同じように、赤いのや黄いのや青いのがあるんだなと思いました。やがて町にはいりましたが通りの家々はもうみんな戸を閉めてしまつて、高い窓から暖かそうな光が、道の雪の上に落ちてゐるばかりでした。

けれど表の看板の上には大い小さな電燈がともっていましたので、狐の子は、それを見ながら、帽子屋を探して行きました。自転車めがねの看板や、眼鏡の看板やその他いろんな看板が、あるものは、新しいペンキで画かかれ、或るものは、古い壁のようにはげていましたが、町に始めて出て来た子狐にはそれらのものがいったい何であるか分らないのでした。

とうとう帽子屋がみつかりました。お母さんが道々よく教えてくれた、黒い大きなシルクハットの帽子の看板が、青い電燈てらに照てらされてかかつていました。

子狐は教えられた通り、トントンと戸を叩きました。

「今晚は」

すると、中では何かことごと音がしていましたがやがて、戸が一寸ほどゴロリとあいて、光の帯が道の白い雪の上に長く伸びました。

子狐はその光がまばゆかったので、めんくらつて、まちがった方の手を、——お母さま

が出しちやいけないと言つてよく聞かせた方の手をすきまからさしこんでしまいました。

「このお手々にちようどいい手袋下さい」

すると帽子屋さんは、おやおやと思ひました。狐の手です。狐の手が手袋をくれと云うのです。これはきつと木の葉こはで買ひに來たんだなと思ひました。そこで、

「先にお金を下さい」と言ひました。子狐はすなおに、握つて來た白銅貨を二つ帽子屋さんに渡しました。帽子屋さんはそれを人差指ひとさしゆびのさきにつけて、カチ合せて見ると、チンチンとよい音がしましたので、これは木の葉じゃない、ほんとお金だと思ひましたので、棚たなから子供用の毛糸の手袋をとり出して來て子狐の手に持たせてやりました。子狐は、お礼を言つてまた、もと來た道を歸り始めました。

「お母さんは、人間は恐ろしいものだつて仰おつしや有つたがちつとも恐ろしくないや。だつて僕の手を見てもどうもしなかつたもの」と思ひました。けれど子狐はいつたい人間なんてどんなものか見たいと思ひました。

ある窓の下を通りかかると、人間の声がいましました。何というやさしい、何という美しい、何と言つておっとりした声なんでしょう。

「ねむれ ねむれ

母の胸に、

ねむれ ねむれ

母の手に——」

子狐はその唄うたごえ声は、きつと人間のお母さんの声にちがいないと思いました。だって、子狐が眠る時にも、やっぱり母さん狐は、あんなやさしい声でゆすぶってくれるからです。するとこんどは、子供の声がありました。

「母ちゃん、こんな寒い夜は、森の子狐は寒い寒いって啼ないてるでしょうね」
すると母さんの声が、

「森の子狐もお母さん狐のお唄をきいて、洞ほらあな穴の中で眠ろうとしているでしょうね。さあ坊やも早くねんねしなさい。森の子狐と坊やとどっちが早くねんねするか、きつと坊やの方が早くねんねしますよ」

それをきくと子狐は急にお母さんが恋しくなつて、お母さん狐の待っている方へ跳とんで行きました。

お母さん狐は、心配しながら、坊やの狐の帰って来るのを、今か今かとふるえながら待っていましたので、坊やが来ると、暖あたたかい胸に抱きしめて泣きたいほどよろこびました。

二匹の狐は森の方へ帰って行きました。月が出たので、狐の毛なみが銀色に光り、その足あとには、コバルトの影がたまりました。

「母ちゃん、人間ってちつとも恐こわかないや」

「どうして？」

「坊、間違えてほんとうのお手々出しちゃったの。でも帽子屋さん、掴つかまえやしなかったもの。ちゃんとこない暖い手袋くれたもの」

と言つて手袋のはまった両手をパンパンやつて見せました。お母さん狐は、

「まあ！」とあきれましたが、「ほんとうに人間はいいものかしら。ほんとうに人間はいいものかしら」とつぶやきました。

青空文庫情報

底本：「新美南吉童話集」岩波文庫、岩波書店

1996（平成8）年7月16日第1刷発行

1997（平成9）年7月15日第2刷発行

入力：大野晋

校正：伊藤祥

1999年3月2日公開

2011年4月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手袋を買いに

新美南吉

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>